# 平仮名の読みの困難さの改善を目指した指導

## ～タブレット端末を活用しながら在籍校と連携した指導～

新潟県村上市立保内小学校（前任校　新発田市立東豊小学校）　教諭　八藤後　和　男

## Ⅰ　はじめに

言語障害通級指導教室で構音指導を受けている児童の中には、構音が改善しても、読み書きの困難さが残ることがある。読み書きの困難さを改善するためには、その困難さの背景を探り、読みの力を底上げするとともに、代替手段を活用して読むことに対する意欲を高めることが必要だと考える。在籍学級や保護者と連携しながら読みの困難さの改善を目指した実践について報告する。

## Ⅱ　実践の概要

就学前に通っていた相談室からサ行音がシャ行音に置換しているとの引継を受け、他校通級として月１回の指導を開始した。４月に構音検査を実施した結果、単音は正しく構音できていたが、単語は浮動性があった。５月、６月は来室できなかったため、７月に在籍校を訪問して会話中でも改善が進んでいることを確認した。学級担任からは、発音はだいぶ改善されてきたが、文字の読み書きの習熟に遅れがあり、音読に取り組もうとしないなど読むことに自信をもてずにいるとの報告があった。

２学期は都合が合わず指導を行うことができなかったが、学級担任から平仮名、片仮名、漢字の読み書きの困難さが引き続き見られるという報告があった。そこで３学期に在籍校を訪問して読みに関する実態把握を行った。教科書の音読では、拾い読みが多かった。包括的読み能力検査の結果から文字と音は正しく対応しているものの、音の操作はやや苦手な傾向にあることが推測された。デイジー教科書を紹介すると、音声に合わせて読もうとする姿が見られ、デイジー教科書を使ってみたいと話していた。

２年生の１学期には家庭での取組としてデイジー教科書の利用とタブレット端末を活用した絵に合うことば探しなどの読みの課題の配信を提案したが、配信した課題に取り組んだ回数は少なかった。

そこで、在籍校の特別支援教育コーディネーターや学級担任と相談し、２学期からは個別指導可能な時間に学級担任と一緒に配信された課題に取り組むことにした。また、デイジー教科書のよさを再度伝え、デイジー教科書は単元の最初に使い、読み方がわかってきたら紙の教科書を使用することを提案した。９月に在籍校を訪問し、読み取りや作文を書く際の支援について提案した。また、デイジー教科書と紙の教科書を読み、どちらが読みやすいかを確認したり、課題のやり取りの方法や時間を相談したりした。10月には保護者からデイジー教科書を使うと、ハイライトと音声で分かりやすかったという感想が寄せられた。在籍学級では、デイジー教科書で音読をするようになってからうまく読めるようになり、一人で取り組める問題が増えたという報告があった。しかし感想や振り返り等の文を書く学習では、頭に浮かんだ事柄を文章で書き表すことが難しいという相談も寄せられた。

そこで、３学期にはこれまでの課題に加えて８枚程度の短文カードの並べ替え課題を提案した。話の内容を推測しやすいようにまとまりごとにカードの色を変えたり、学級担任から必要に応じてカードを読み上げてもらったりすることで課題に取り組むことができた。

## Ⅲ　まとめ

デイジー教科書を活用した音読や読みの課題に取り組んだことで、在籍学級での音読やテストへの取組に変化が見られた。通級担当者が直接指導した回数は少なかったが、在籍校の職員や保護者と連携して、継続的な支援を行ったことで、児童の読みの力に伸びが見られたと考えられる。一方で、短文カードの並べ替え課題はまだ一人で取り組むことが難しい。文章を書く力を伸ばすための支援は今後も必要な状態にあると考えられるが、通級指導をどの段階で終了とするか検討が必要である。また通級指導教室には巡回指導の促進が求められているため、その枠組みを整備していく必要がある。